

# 教育研究業績

2026年 5月 1日

氏名 牧野 充

研究分野

学位

日本語教育

学士(文学士)

研究のキーワード

言語教育、教師教育、異文化間コミュニケーション

教 育 上 の 能 力 に 関 する 事 項

事項	年月日	概 要
1 教育方法の実践例	2006年4月～2025年3月	日本語の学習歴が概ね150時間程度（CEFR A1）の留学生に対し、語学学習共通の枠組みである4技能を総合的に習得できるよう指導して来た。教授法はコミュニカティブアプローチで、実際のコミュニケーション（やり取り）を通じて言語が習得できるよう心がけた。
	2009年4月～2025年3月	CFERレベルA2後半～B1及びB2～C1レベルの中級～上級レベルとされる学習者に対し、JLPT、EJUといった各公的試験に対する受験指導をした。学習者個々のレベル、学習スタイルに合った指導を心がけた。
	2020年4月～2024年4月	ZOOMを用いたオンライン授業を早期に実施し、通常授業、課題、テスト等、在宅での学習が対面と比して、その質を維持できるよう工夫した。同時に日本留学を控えた入国前の留学生に対してもオンライン授業を実施し、日本留学に対するモチベーションが下がらないよう工夫した。
	2025年4月～2026年4月	予備教育（日本語学校）を修了した留学生（B2相当）が大学での専門教育にスムーズに移行出来るよう、初年次教育に適した教材を用いて指導。また100名を超す多人数でも双方向での授業（学習者の自発的な発話）となるよう工夫している。  1, 日本語能力試験に向けた対策授業では、模擬試験を繰り返し実施し、解法のみならず試験形式に慣れさせ、緊張感を持たせるよう工夫した。また学生が苦手とする文法に関しては、話題シラバスを採用し、毎回、指導文法を1つの話題の中でまとめ、話の流れにより展開していく形で進めた。話題もニュース等の時事問題から学生の日常生活に関するものまで、幅広く扱い学生が興味を持って取り組めるよう指導した。 2026年4月からは、初回授業時に学修計画を作成させ目的意識を持たせた。また学習記録を授業ごとに書かせ、理解できたこと、難しいと感じたことなどを都度、振り返りさせることにした。  2, 日本語聴解の授業では、事後学修として授業で扱った音声のスク립トを配布し自宅で音読をさせることにした。これは聴いたことをテキストで確認することで、授業内容の一層の定着を狙ったものである。  3, 初年次留学生のキャリア科目の授業では、2026年より中学公民の教科書をベースとして、政治、経済、社会、憲法等の基礎的な知識の修得を目的とした学修指導を実施している。これは留学生が
2 作成した教科書、教材		
3 教育上の能力に関する大学等の評価		
4 実務の経験を有する者についての特記事項		
5 その他		

職 務 上 の 実 績 に 関 す る 事 項				
事 項		年 月 日		概 要
1 資格, 免許		2005年12月16日 2022年7月27日 2024年1月4日 2025年4月14日		日本語教育能力検定合格 情報セキュリティマネジメント試験合格 二級知的財産管理技能士合格 登録日本語教員 (登録日)
2 特許等				
3 実務の経験を有する者についての特記事項		2006年4月 2009年4月 2021年4月		東京早稲田外国語学校入社 同社 教務主任 同社 学校長
4 その他				
研 究 業 績 等 に 関 す る 事 項				
著書, 学術論文等の名称	単著・ 共著の別	発行又は 発表の年月	発行所, 発表雑誌等 又は発表学会等の名称	概 要
(著書)				
(学術論文)				
(その他)				